

**地域子育て支援拠点の寄り添い型支援が  
親の成長を促すプロセス分析と  
支援者の役割に関する調査研究**

**概要版**

平成 30 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

NPO 法人 子育てひろば全国連絡協議会



## 目 次

### 地域子育て支援拠点の寄り添い型支援が親の成長を促すプロセス分析と 支援者の役割に関する調査研究の概要

I.	本調査研究の目的と背景	1
II.	本調査の実施内容	2
III.	本調査の結果の概要	4
IV.	短期縦断調査（プレ／ポスト調査）の結果の概要	16
V.	総合考察	18
VI.	量的調査の結果の抜粋	20

#### <研究メンバー>

伊藤 篤（甲南女子大学 教授）

倉石 哲也（武庫川女子大学 教授）

鶴 宏史（武庫川女子大学 准教授）

奥山 千鶴子（NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会 理事長）

坂本 純子（NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会 副理事長） ※研究代表者

中條 美奈子（NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会 理事）

岡本 聡子（NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会 理事）

# 地域子育て支援拠点の寄り添い型支援が親の成長を促すプロセス分析と 支援者の役割に関する調査研究の概要

## I. 本調査研究の目的と背景

子ども・子育て支援および少子化対策の一環として、平成 20（2008）年度に厚生労働省によって創設された地域子育て支援拠点事業は、主に乳幼児を育てる親が子どもとともに利用できる身近な子育て支援施設を中心として地域の子育ち・子育て支援サービスを提供する取組として、その整備が進められてきた。

少子化社会対策大綱では、平成 31（2019）年度までに全国 8,000 箇所の整備目標が掲げられており、平成 29（2017）年度交付金ベースで全都道府県に 7,259 箇所に至っている。また、事業創設当初から実施要綱において、地域子育て支援拠点事業では、次の支援活動を「基本 4 事業」と位置づけて、利用する親子の主体性を尊重する支援が展開されてきている。

- ①子育て親子の交流の場の提供と交流の促進
- ②子育て等に関する相談、援助の実施
- ③地域の子育て関連情報の提供
- ④子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

子育ての不安感や負担感、孤立感などがますます高まる中で、地域子育て支援拠点事業は、地域子ども・子育て支援事業の一つ（平成 30〔2018〕年 3 月改正の子ども・子育て支援法第 59 条-9）としても位置づけられることとなり、子育て家庭にとって最も身近な地域における子育て支援の中核的機能を果たす取組として、その重要性が増しており、その役割の充実に大きな期待がかけられている。

本調査研究では、地域子育て支援拠点において重視されている「利用者が親として自らを変容させていく過程を見守り支える」という特性を「寄り添い型支援」と概念化し、これが、子育て中の親の不安感や負担感、孤立感をどのように軽減するのか、子育て中の親が本来持っている強み（力）をどのように育み、「親としての成長」を促すのかを明らかにすることで、地域子育て支援拠点事業の支援の質の向上に資する知見を得ることを目的とした。

## II. 本調査の実施内容

### 1. 調査概要

本調査研究では、検討委員会を設置し、全国で地域子育て支援拠点事業を実施する 504 箇所の支援拠点の支援者（職員）とその利用者（親）を調査対象とし、以下のような手順によって実施された。

#### <調査手順>

- (1) 「寄り添い型支援」に関する先行研究調査
- (2) 地域子育て支援拠点における「親としての成長」と「寄り添い型支援」の仮説的定義の導出
- (3) 量的調査の支援者・利用者、それぞれの対象への調査内容と質問項目の検討と決定、調査の実施、結果のとりまとめ
- (4) 聞き取り調査の支援者・利用者、それぞれの対象への調査内容と質問項目の検討と決定、調査員のための説明会の開催、調査の実施、結果のとりまとめ
- (5) 並行して、プレ／ポスト調査を実施
- (6) 量的調査と聞き取り調査、プレ／ポスト調査の結果の分析、検討
- (7) 考察

#### <調査対象>

全国の地域子育て支援拠点事業 504 箇所の支援者（職員）1～2 名とその利用者（親）10～20 名を対象とした。なお、量的調査において郵送調査の対象とした拠点は 53 箇所、インターネット調査の対象とした拠点は 451 箇所であった。聞き取り調査とプレ／ポスト調査は、郵送調査の対象とした 53 箇所から協力を得られた 25 箇所を対象とした。

#### <抽出方法>

調査対象の 504 箇所は、前年（平成 29 年）度子ども・子育て支援推進調査研究事業「地域子育て支援拠点の質的向上と発展に資する実践と多機能化に関する調査研究」において、全国の地域子育て支援拠点 6,446 箇所の中からランダム抽出した 1,210 箇所のうち、有効回答を寄せた 548 箇所の中から、基本 4 事業の質の向上に「取り組んでいる」または「積極的に取り組んでいる」と回答した拠点を抽出した。また、前年度調査において「質の向上を図る実践事例」を提供し、報告書に掲載された 53 拠点を、郵送による量的調査と聞き取り調査、プレ／ポスト調査の主な対象とした。

<調査方法>

- ①量的調査（対象：支援者・利用者）：郵送とインターネットによるアンケート調査
- ②聞き取り調査（対象：支援者・利用者）：調査員が支援拠点に訪問して実施
- ③プレ／ポスト調査（対象：5拠点の支援者・利用者）：
  - A. ①と同様の量的調査を、郵送で2回実施
  - B. ②と同様の聞き取り調査を、1回訪問実施

<回収結果>

- ①量的調査
  - 支援者 259票（インターネット調査185、郵送調査74）
  - 利用者 1,322票（インターネット調査691、郵送調査631）
- ②聞き取り調査
  - 支援者 20人
  - 利用者 20人
- ③プレ／ポスト調査
  - A. 量的調査
    - 支援者 5票
    - 利用者 45票（うち有効回答41票）
  - B. 聞き取り調査
    - 支援者 5人
    - 利用者 4人

<調査期間>

- ①量的調査 平成30年10月1日～10月31日
- ②聞き取り調査 平成30年10月15日～10月30日
- ③プレ／ポスト調査
  - A. 量的調査
    - 1回目：平成30年10月1日～10月13日
    - 2回目：平成31年1月4日～1月19日
  - B. 聞き取り調査 平成31年1月20日～1月31日

### Ⅲ. 本調査の結果の概要

#### 1. 地域子育て支援拠点における「親の成長」と「寄り添い型支援」の定義

本調査研究に取り組むにあたり、「地域子育て支援拠点における『親としての成長』と『寄り添い型支援』」をかせつてき仮説的に定義するため、検討委員会において知見を持ち寄り討議し、下記の仮説的定義を導き出した。

##### 地域子育て支援拠点における「親としての成長」

親が、日々の子育てや子育てで生じた葛藤や困難に向き合う中で、自らのこれまでの経験を活かしつつ、力添えを受け入れたり、必要に応じて他者に頼るなど、子育てに関する自己決定の経験を通して、わが子への感受性や応答性を高めること。また、こうした経験を通して、わが子以外の子どもの存在に気づき、共に養育に関わろうと認識し、行動しようとするプロセス。

##### 地域子育て支援拠点における「寄り添い型支援」

地域子育て支援拠点という場を使いながら、ピア及び支援者との相互作用を活用し、受容の連鎖をつくることを通して、親と支援者が、共に相互にエンパワメントし合う活動。

なお、検討に際して、比較的新しい「寄り添い型支援」という表現について、近年においてその概念を定義または示唆する研究がなされていないかの先行研究の論文調査を、文献検索システム CiNiiなどを用いて行った。

2008年のリーマン・ショック以降の生活困難者支援で「寄り添い型支援」という表現は盛んに使用されていたが、その概念や定義を主題として取り上げた論文は見当たらなかった。「寄り添い型支援」に近似的な表現として「伴走型支援」が先行して使用されていたことが調査によって捉えられたことから、「寄り添い型支援」に「伴走型支援」を加えて検索した論文を、「寄り添い型支援」の仮説的定義に検討の際に参考とした。

## 2. 量的調査の結果

### (1) 調査の概要

#### ①調査項目

支援者と利用者（保護者）への調査票の質問項目の作成にあたり、「地域子育て支援拠点における『親としての成長』と『寄り添い型支援』」の仮説的定義を踏まえた。

支援者対象の調査の質問項目数は34とした。9項目のフェイスシートに続き、主に支援者がどのように支援を展開しているのか（寄り添い型支援が展開されているのかも含めて）を問う25項目を設定した。

利用者対象の調査の質問項目数は33とした。8項目のフェイスシートに続き、利用する拠点の支援者の対応や拠点の雰囲気などをどのように評価しているかを尋ねる質問を8項目設定した。さらに、拠点利用によって自身や子どもが何を得られたか・どのように変化したかを尋ねる質問を17項目設定した。

#### ②回収結果

支援者 259票（インターネット調査185、郵送調査74）

利用者 1,322票（インターネット調査691、郵送調査631）



## (2) 結果の概要

支援者と利用者を対象とした量的調査結果から、「寄り添い型支援」と「利用者の親としての成長」、および両者の関係性について分析した結果の概要は、次のとおりである。

### ①支援者の「寄り添い型支援」について

拠点の支援者による支援内容（実態）を4件法で尋ねた23項目に関する因子分析の結果から、支援者の行っている支援は、4つの側面（因子）から構成されることが示された。寄与率の高かった因子順に、因子名とそれを構成する項目内容を整理したもの（項目そのものではない）を以下に示す。

#### 第1因子：対人援助技術の活用

「利用者との対等な関係」「利用者同士の支え合いや協力の促進」  
「利用者の自信や他者への共感性を高める働きかけ」「利用者自身の経験を活かす支援」  
「利用者の自己決定を尊重した支援」「子どもの最善の利益の尊重」  
「子どもの他者信頼への配慮」「支援者自身の成長につながる支援活動」

#### 第2因子：受容的・共感的姿勢

「受容と共感的態度」「利用者のおける子育ての実態の理解」  
「日頃からいつでも相談を受け入れる態度」「利用者の孤立防止・不安感の軽減の重視」  
「子どもの理解と親と共にその成長を見守る姿勢」

#### 第3因子：知る・学ぶ機会の提供

「利用者を対象とした情報の提供や講習会の開催」「地域連携の推進」  
「利用者同士の語り合い促進」

#### 第4因子：個別ケースの共有と対応

「ケース記録」「ケース会議の重視」

第1因子に含まれる内容は幅広いものの、いわゆるソーシャルワークで重視されている姿勢や観点が含まれており、私たち研究メンバーが事前に定義した「寄り添い型支援」のうち「ピア及び支援者との相互作用の活用」「親と支援者が共に相互にエンパワメントし合う」に該当する。第2因子に含まれる内容は、まさに「寄り添い型支援」の定義のうち「受容の連鎖」に該当している。

一方、第3因子に含まれる内容は「知る・学ぶ機会の提供」と整理でき、従来から拠点で重視されている標準的な支援である。第4因子を構成する2項目は、利用者への直接的な対応・働きかけというよりも、拠点における相談・援助の管理・運営的側面が中心となっている。以上から、第3・4因子は「寄り添い型支援」を表したのものとは言えないと判断される。

これら4つの因子得点に基づいてクラスター分析をおこなった結果、第1因子および第2因子の因子得点平均値が正の値を示した群（クラスターII）に属する支援者は、支援者全体の約45%を占めていた。要因複合度指標から判断すると、これらの支援者は、4つの支援全体にわたって不十分な段階から、まずは個別ケースの共有・対応が可能となり、次に受容的・共感的な姿勢で支援できるようになり、最終的に「寄り添い型支援」の2因子を含めたすべての側面の支援が展開するようになるという過程をたどることが想定できる。

## ②利用者の「親としての成長」について

拠点の利用者の自身の変容、すなわち「親としての成長」に関して4件法で尋ねた17項目に関する因子分析の結果から、利用者の親としての成長は、3つの側面（因子）から構成されることが示された。寄与率の高かった因子順に、因子名とそれを構成する項目内容を整理したものを以下に示す。なお、利用者とは、子は第1子のみ、拠点以外の施設等を利用していない母親である。

### 第1因子：エンパワメント

「子育てを助けてくれる存在の認識」「育児に関して自分なりの解決法や価値観がある」  
「わが子への成長・発達への理解や関心・わが子への愛情」  
「子育てでつらいのは自分だけではない」「自分も他者も共に子育てを頑張っている」

### 第2因子：交流の広がり・深まり

「自身が育児仲間と知り合えた」「育児仲間と日常的に会話するようになった」  
「子どもに友人ができた」「他者の子どもに働きかけるようになった」  
「他の親子の力になりたいと思うようになった」

### 第3因子：自己有用・有能感

「自分の情報・経験は他者の役に立つ」「面倒なことでも行おうと思う」  
「自分の本当の気持ちを話せる」

第1因子には多様な要素が含まれているが、自分なりの育児に向かう積極的な姿勢や他の保護者とともに育児にかかわろうとする姿勢が見られるので、それらを合わせて「エンパワメント」された状態だと判断した。「親としての成長」の定義のうち「力添えを受け入れる・必要に応じて他者に頼る」「自己決定の経験」「わが子への感受性や共感性を高める」「わが子以外の親と共に関わろうとする認識・行動」にあたる。

第2因子に含まれる内容は、「親としての成長」の定義の「わが子以外の子どもの存在に気づく」「他の親と共に養育にかかわろうとする認識・行動」に相当しているが、その契機は前者の3項目で代表される「親と子が互いに知り合いになる」という交流の広がりである。そして、後者の2項目は交流が深まった成果と判断できることから、この因子を「交流と広がり・深まり」と命名した。

第3因子は、他者の役に立つことであれば、自ら主体的に取り組もうとする姿勢であり、その背景には自らの経験・能力等が他者の役に立つという自信の表れであると判断し、この因子を「自己有用・有能感」と判断した。「親としての成長」の定義との関連性で言えば、「自らのこれまでの経験を活かす」「自己決定の経験」「共に養育に関わろうとする認識・行動」にあたる。

### ③利用者の「寄り添い型支援」に対する認識と「親としての成長」との関連について

利用者による拠点や支援者に対する評価8項目の結果を利用して「寄り添い型支援」と「親としての成長」との関連性の分析を行った。

これら8項目（利用者調査における第9項目～第16項目）は、「職員（拠点の支援者）は、利用者をホスピタリティに満ちた態度で迎え入れ、普段から交流の場において利用者と親しく関わっており、利用者の気持ち・悩みを共感的に受け止めてくれるため、気軽に相談しやすく、子ども同士のトラブルにも配慮してくれ、子育ての解決法を押し付けられているというよりも子育てを支えられていると感じる」という内容を問う質問で構成されており、これら全体に対して肯定的に評価すればするほど、その利用者は自分が「寄り添い型支援」を受けていると感じていると判断できることから、これら8項目を単純加算した合計得点の平均値を算出し、低評価群と高評価群とに分け、それぞれの「親としての成長」に関する3つの因子得点を比較した。

その結果、いずれの因子得点も高評価群のほうが有意に低評価群よりも高いことが明らかとなり、「寄り添い型支援」を受けていると認識している利用者の方が、親としての自らの成長を「エンパワメント」「交流の広がり・深まり」「自己有用・有能感」という側面において明確に認識していると結論づけることができた。

### 3. 聞き取り調査の結果

#### (1) 調査の概要

##### ①調査対象

平成 29 年度に「NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会」が厚生労働省より補助を受けて実施した「地域子育て支援拠点の質的向上と発展に資する実践と多機能化に関する調査研究」における 1 次調査（郵送調査）において「質の向上に取り組んでいる」と回答した 504 拠点の中で平成 29 年度調査報告書に事例として掲載された 54 拠点の中から、今回協力を得られた全国各地の 20 拠点（表 1）を対象に、支援者 1 名と利用者 1 名に対して、インタビューガイドに基づく半構造化された聞き取り調査を行った。

表 1 調査の対象とした 20 拠点の設置自治体とその人口

設置自治体			市区町人口	設置自治体			市区町人口
1	北海道	札幌市豊平区	222,315	11	長野県	長野市	377,967
2	岩手県	盛岡市	293,676	12	長野県	上田市	158,111
3	埼玉県	新座市	165,342	13	岐阜県	大垣市	161,461
4	千葉県	松戸市	496,571	14	静岡県	静岡市葵区	250,041
5	東京都	武蔵野市	146,399	15	三重県	鳥羽市	18,784
6	神奈川県	横浜市港北区	345,913	16	大阪府	枚方市	402,466
7	神奈川県	大和市	235,816	17	大阪府	富田林市	111,837
8	新潟県	上越市	193,275	18	香川県	坂出市	51,517
9	石川県	加賀市	67,207	19	高知県	仁淀川町	5,366
10	福井県	福井市	264,326	20	福岡県	福岡市城南区	132,306

※各自治体 web サイト公表値（2019 年 1 月現在）

## ②調査項目

支援者と利用者（保護者）への調査票の質問項目の作成にあたり、「地域子育て支援拠点における『親の成長』と『寄り添い型支援』」の仮説的定義を踏まえた。

支援者を対象とする聞き取り調査では、拠点を利用し始めた利用者に対して、11項目について利用者の考え方や行動に期待する変化と、その変化をもたらすために支援者が行った支援、利用者相互の関係を用いて行った支援、拠点という場の力を使って行った支援を具体的に質問した。次に、親への支援を通じた、支援者自らの変化についても質問し、自身の変化が拠点での支援にどのように活かされているのかについても質問した。支援者自身が「親としての成長」をどのようなものと捉えているのか、またそのために自身が考える地域子育て支援拠点の支援の望ましいあり方についても質問した。

利用者を対象とする聞き取り調査では、拠点を利用し始めてからの自身の考え方や行動の変化について11項目で質問し、こうした変化が拠点の利用に関係があるかを具体的に聞き取った。次に、拠点を利用し始めてから、自分の役割（親、妻、地域の一人、職業人など）に関して考え方や行動が変化したかと、拠点利用との関係性を具体的に質問した。

## ③分析方法

聞き取り調査で得た内容から「寄り添い型支援」と「親としての成長」に該当する文書セグメントを抽出し、支援内容ごとに意味の類似性に基づき表札を付帯し、KJ法により、小項目・中項目・大項目にわたる3段階の分類作業を行い、表札間の関係性を考察し、図解化した。

## (2) 結果の概要

支援者と利用者を対象とした質的調査から、「寄り添い型支援」と利用者の「親としての成長」、および両者の関係性について分析した結果は、次のとおりである。

### ①地域子育て支援拠点の支援者が考える「寄り添い型支援」と「親としての成長」との関係

質的調査の分析の結果、地域子育て支援拠点の支援者が考える「寄り添い型支援」とは、大きく4つの支援で構成されており、それぞれの支援は下記の内容を含んでいた。

#### 「寄り添い型支援」を構成する4つの支援

##### 1. 拠点という場の力を使って行った支援

- 場の雰囲気重視
- 安心できる雰囲気の醸成・環境設定
- 交流を促す雰囲気の醸成・環境設定
- 支え合い、育ち合う場や機会の提供
- 気づきを促し、強みを発揮できる場の提供・環境設定

## 2. 支援者と利用者との相互作用を活用した支援

- 主体性を尊重した実践
- 安心感を与える関わり
- わが子理解の促進
- 身近な相談相手
- 日常会話の活用
- 受容的・共感的な関与
- 状況や心情を踏まえた関わり
- 力を引き出す関わり
- 地域とのつながりの創出
- 力の獲得

## 3. 利用者相互の関係性を用いて行う支援

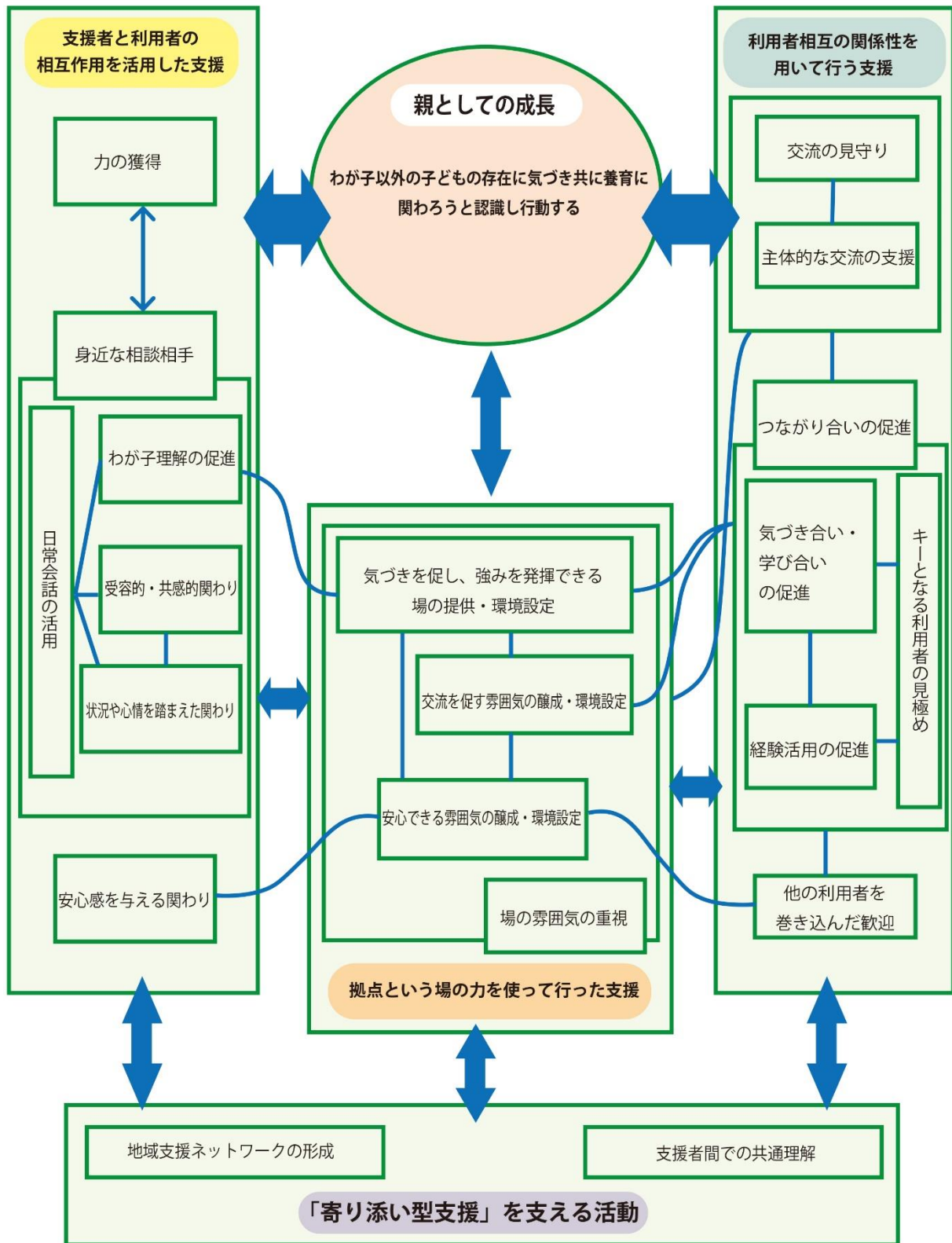
- 他の利用者を巻き込んだ歓迎
- つながり合いの促進
- 気づき合い・学び合いの促進
- 経験活用の促進
- キーとなる利用者の見極め
- 主体的な交流の支援
- 交流の見守り

## 4. その他の支援(寄り添い型支援を支える活動)

- 支援者間での共通理解
- 地域支援ネットワークの形成

地域子育て支援拠点における「寄り添い型支援」とは、「地域子育て支援拠点という場を使いながら、ピア及び支援者との相互作用を活用し、受容の連鎖をつくることを通して、親と支援者がともに相互にエンパワメントし合う活動」と定義され、利用者の「親としての成長」を、図1のような構造と展開で促していることが捉えられた。

# 「寄り添い型支援」の構造と展開



— 関係あり    ↔ 因果関係

作成：鶴宏史

図1 「寄り添い型支援」の構造と展開

## ②地域子育て支援拠点の利用者が『親として成長』する意味

「親としての成長」に関する質問項目に対する回答、という形式で聞き取り調査した利用者の声によって導き出され生成された概念は、次の13のカテゴリーに分類された。

### 「親としての成長」概念を構成する13のカテゴリー

1. 安全基地と安全な避難場所の獲得
2. 親の愛着対象の認識と獲得
3. セルフケアの意識
4. 養育力の獲得
5. 他者に頼る力
6. 子どもの育ちを分かち合える仲間の獲得
7. 経験を活かした自己実現への意識の高まり
8. 肯定的な養育イメージの獲得
9. 親世代との関係の見直し
10. 将来展望の獲得
11. 配偶者との関係の見直し
12. 職業観の獲得
13. 他者への貢献意識の獲得

拠点利用開始当初の親の気持ち（不安を含む）と行動、拠点を積極的に利用するようになった親の気持ちや行動を想像しながら全体を見ると、独立している13のカテゴリーは一連の繋がりと捉えられ、図2のような「親としての成長」の概念図によって示すことができた。

地域子育て支援拠点における「親としての成長」プロセスは、「親としての成長」の概念を、「安全基地と安全な避難場所の獲得」「養育力の獲得」そして「将来展望の獲得」の3つの獲得によって次のように進展すると考えられる。

**親の拠点の利用は「安全基地・安全な避難場所」と感じるころから開始される。**

子どもを連れてのはじめての利用は緊張や不安を伴うが、職員や他の先輩利用者に受け入れられる体験が、自身の親や配偶者以外の「愛着対象の獲得」に繋がりと、本人の欲している居場所感覚と合致することによって、その後の利用継続に繋がっていく。利用継続で得られる心地よい感覚は「セルフケア」につながり、親自身を快適な状態へと導いていく。「安全基地と安全な避難場所の獲得」は、「愛着対象の獲得」および「セルフケア」と連鎖しながら、職員や先輩利用者との交流を活性化させる。



「養育力の獲得」は、「安全基地と安全な避難場所の獲得」意識が職員らとの交流で活性化されることで、導かれる。

拠点利用が規則的になり、生活にリズムが生まれたと語る利用者は多い。午前中に拠点を利用することで、あるいは拠点を利用する日はそれを前提に朝から準備が整う（【生活リズムの獲得】）。拠点で先輩利用者の話を聞きながら、あるいは子どもへの関わりをモデルにしながら、育児書どおりの子育てをしなくてもよいのだと気持ちが高くなるといった【情緒的なゆとりー強迫的育児からの解放】が為される。交流を通じて得る解放感によって、子どもの遊びの様子や他の親子の様子を一步離れた場所から見ることができる【子どもの理解】の視点が確保され、子どもの立場で思いや欲求を想像することができるようになり、子どもとの関係で【感受性と応答性の高まりーアタッチメントの安定】と【波長あわせ】を経験的に獲得できるようになる。この「養育力の獲得」は、愛着対象の獲得によって人に支えられる感覚を会得した親が、自分を取り巻く環境に意識を向け始めて【頼る力】を得ることによって高められる。

「将来展望の獲得」は「養育力の獲得」によって導かれる。

【親展望の獲得】は子どもと過ごすことに専念しようという思いの強さであったり、子育てを楽しんでいるので仕事量を減らして子育て優先の生活スタイルを選んでいるという【子ども中心にシフトする】意識と繋がっている。と同時に自分らしい家族像について考えられるようになったと【家庭・養育イメージの獲得】が促されている。また【多様な養育イメージに触れる】ことで、新たな資格や役割の獲得意識が高まり、外に働きに行く選択肢を考えるようになったり、ゆとりを持って働くことが出来るのではないかと思えるようになるなど【職業人、主婦としての展望】や【見通しが持てるようになる】に至る。将来展望は、「子どもの育ちを分かち合える仲間の獲得」「親世代との関係の見直し」「配偶者との関係の見直し」といった親を取り巻く人間関係の変容やそれへの意識が下支えになっていることも利用者の語りから推測される。やがて利用者のなかには「地域への貢献意識」に至る場合があるが、ここには拠点の職員やボランティアの働きがモデルになっていることが、語りから推測できる。

「親としての成長」を構成する「安全基地と安全な避難場所の獲得」「養育力の獲得」「将来展望の獲得」を実現しているのが「寄り添い型支援」である。「寄り添い型支援」は「養育力の獲得」や「将来展望の獲得」と密接に関連しながら「親としての成長」に寄与している。

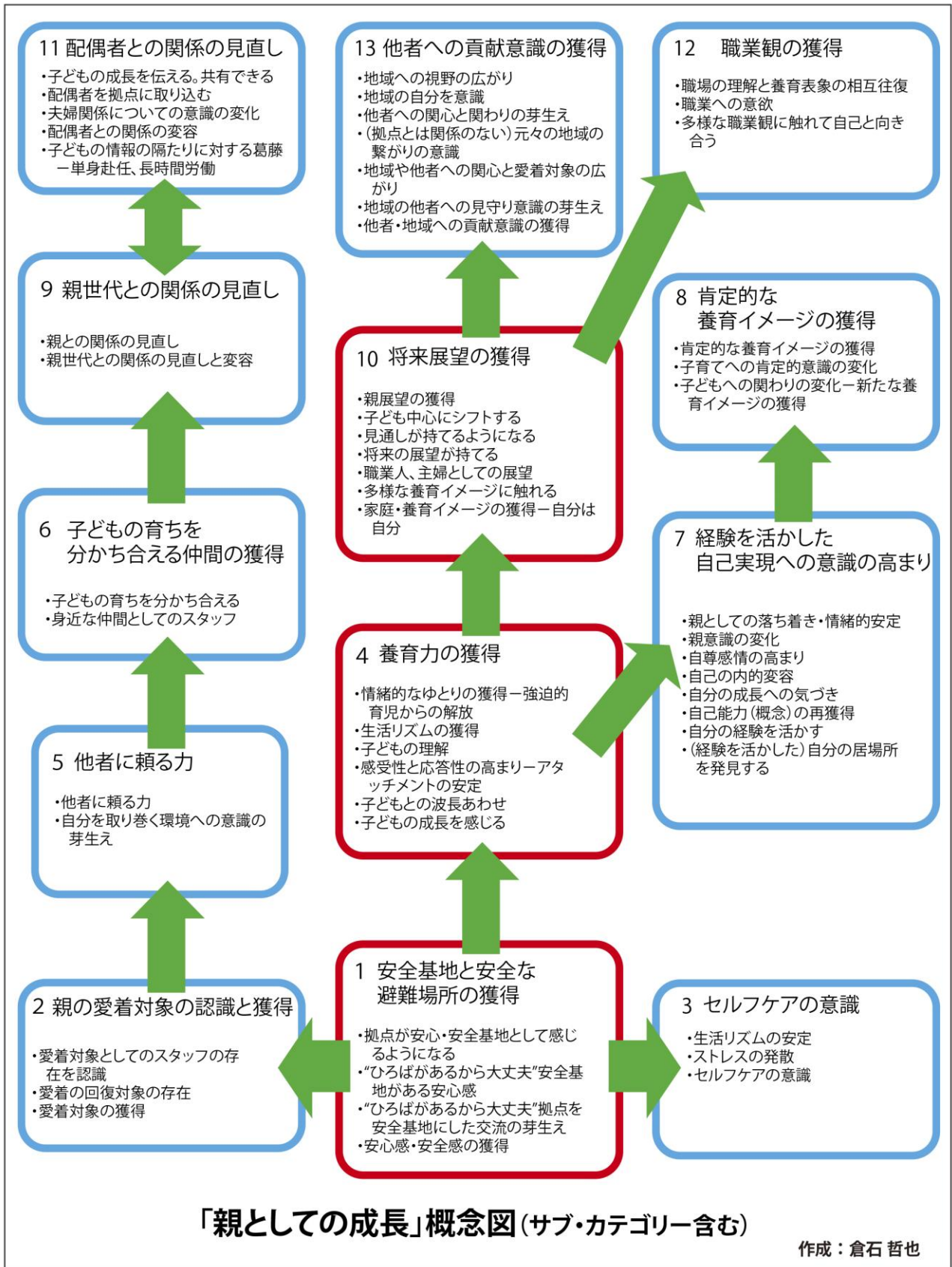


図2 「親としての成長」概念図

#### IV. 短期縦断調査(プレ/ポスト調査)の結果の概要

##### (1) 調査の概要

平成 29 年度に「NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会」が厚生労働省より補助を受けて実施した「地域子育て支援拠点の質的向上と発展に資する実践と多機能化に関する調査研究」における 1 次調査（郵送調査）において「質の向上に取り組んでいる」と回答した 504 拠点の中で平成 29 年度調査報告書に事例として掲載された 54 拠点の中から、今回協力を得られた全国各地の 5 拠点（表 2）を対象に、量的調査と聞き取り調査を行った。

量的調査については、支援者 1 名と拠点を利用して 3 か月未満の利用者約 10 名を対象にプレアンケート調査を行い、その約 3 か月後に同じ利用者を対象にポストアンケート調査を行った。調査対象はプレ/ポストアンケート両方がそろったものだけを分析対象とした。聞き取り調査については、量的調査に協力いただいた各拠点の支援者 1 名と利用者 1 名に対して、インタビューガイドに基づく半構造化されたヒアリングを行った。

表 2 調査の対象とした 5 拠点の設置自治体とその人口

設置自治体			市区町人口
1	宮城県	仙台市泉区	213,844
2	神奈川県	横浜市戸塚区	280,365
3	富山県	氷見市	47,535
4	岡山県	倉敷市	482,541
5	福岡県	北九州市小倉南区	210,050

※各自治体 web サイト公表値（2019 年 1 月現在）

## (2) 結果の概要

全国の5拠点における拠点初期利用者が、短期間の利用（3カ月）によってどのように変化するかを中心に、拠点スタッフの「寄り添い型支援」と利用者の「親としての成長」について、支援者と利用者を対象とした質問紙調査、聞き取り調査から得られた結果は以下の通りである。

### ①初期利用者の「親としての成長」について

量的調査では、全体調査と概ね同様の結果が得られ、拠点に対する評価は全体的に高く、拠点の利用頻度により親としての成長の側面に特徴があることがわかった。利用頻度が高い利用者群は、親としての成長の3つの側面のうち、第3因子「自己有用・有能感」が、より高まっていることがわかった。

質的調査からは、拠点を利用して6カ月程度の初期利用者についても親の成長のプロセスが進化している状況がある程度把握できる結果であったが、利用者同士の交流の深まりや子どもの育ちを分かち合える仲間の獲得などの深まりについては、利用頻度が増すなど一定の時間がかかるものと推察された。

### ②利用者の「寄り添い型支援」に対する認識と「親としての成長」との関連について

量的調査においては、拠点の評価の高評価群の方が、低評価群に比べて、「親としての成長」に関する3つの因子得点がすべて有意に高いことが明らかになった。つまり、寄り添い型支援を受けていると意識している利用者の方が親としての自らの成長を明確に意識できているという可能性が導きだされた。

聞き取り調査においては、支援者は、親子の現状を見極め、親の成長のプロセスに応じて必要な支援や環境を整えている様子が把握された。

## V. 総合考察

本事業で取り組んだ量的調査・聞き取り調査・プレ／ポスト調査の3つの調査から、地域子育て支援拠点の寄り添い型支援が親の成長を促すプロセス分析と支援者の役割についての考察を述べる。

地域子育て支援拠点における「寄り添い型支援」は、支援者を対象とした量的調査の分析から、次の4つの側面で構成されていることが示され、

1. 対人援助技術の活用
2. 受容的・共感的姿勢
3. 知る・学ぶ機会の提供
4. 個別ケースの共有と対応

そのうち「1.対人援助技術の活用」と「2.受容的・共感的姿勢」は、寄り添い型支援を特徴づける重要な側面であった。前者にはソーシャルワークで重視されている姿勢や観点が数多く含まれており、後者はピア及び支援者との間の受容の連鎖を作り出す役割を担っていた。

さらに分析を進めることで、支援者が「寄り添い型支援」を習熟していく過程も浮かび上がってきた。4つの支援が全体的に不十分な状態から、まず個別ケースの共有・対応が可能となり、次に受容的・共感的姿勢を獲得し、最終的に4つの支援が総体として展開されていくと考えられることから、地域子育て支援拠点の「寄り添い型支援」の向上を図る上で、意識すべき点として指摘しておきたい。

聞き取り調査では、「寄り添い型支援」に関する436の文書セグメントから、以下の4つの支援が分類され、量的調査では捉えきれなかった「地域子育て支援拠点という場の力」が見出された。

1. 拠点という場の力を使って行った支援
2. 支援者と利用者の相互作用を活用した支援
3. 利用者相互の関係性を用いて行う支援
4. その他の支援（寄り添い型支援を支える活動）

以上から「寄り添い型支援」を仮説的に定義した「地域子育て支援拠点という場を使いながら、ピア及び支援者との相互作用を活用し、受容の連鎖をつくることを通して、親と支援者がともに相互にエンパワメントし合う活動」を、量的調査と聞き取り調査の双方の結果が補完し合いながら明示することができた。

次に、地域子育て支援拠点における「親としての成長」について、利用者を対象とした量的調査の分析結果からは、「エンパワメント」と「交流の広がり・深まり」そして「自己有用・有能感」の3つの側面が大きく示され、聞き取り調査からは、13の下記の категорияが一連のつながりとして捉えられた。

1. 安全基地と安全な避難場所の獲得
2. 親の愛着対象の認識と獲得
3. セルフケアの意識
4. 養育力の獲得
5. 他者に頼る力
6. 子どもの育ちを分かち合える仲間の獲得
7. 経験を活かした自己実現への意識の高まり
8. 肯定的な養育イメージの獲得
9. 親世代との関係の見直し
10. 将来展望の獲得
11. 配偶者との関係の見直し
12. 職業観の獲得
13. 他者への貢献意識の獲得

量的調査と聞き取り調査からは、親としての成長を仮説的に定義した「親が、日々の子育てや子育てで生じた葛藤や困難に向き合う中で、自らのこれまでの経験を活かしつつ、力添えを受け入れたり、必要に応じて他者に頼るなど、子育てに関する自己決定の経験を通して、わが子への感受性や応答性を高めること。また、こうした経験を通して、わが子以外の子どもの存在に気づき、共に養育に関わろうと認識し、行動しようとするプロセス」という内容を含みながら、地域子育て支援拠点が、利用者である親に与える成長は、親役割だけにとどまらない、人間的成長までをももたらすことを示している。加えて、プレ／ポスト調査の結果から、利用者が「寄り添い型支援」を受けていると意識しているほど、自らの親としての成長を実感しているという可能性も導き出された。

地域子育て支援拠点において「利用者が親として自らを変容させていく過程を見守り支える」という特性を「寄り添い型支援」として高め、子育て中の親が本来持っている強み（力）を育み、「親としての成長」を促すための枠組みが、本調査研究によって明らかになった。

今後はこれらの結果を、地域子育て支援の実践の場と共有しながら、支援の質の向上に活用していく具体的な方策を検討し、開発、実践することが期待される。

## VI. 量的調査の結果の抜粋

### (1) 地域子育て支援拠点の支援者／利用者アンケート調査票

厚生労働省 平成30年度子ども・子育て支援推進調査研究事業  
「地域子育て支援拠点の寄り添い型支援が親の成長を促すプロセス分析と支援者の役割に関する調査研究」

### 地域子育て支援拠点の支援者アンケート

(1)あなたが勤務する地域子育て支援拠点とあなたの業務についてお答え下さい。

1. あなたが勤務する地域子育て支援拠点の名称を記して下さい

2. 上記の所在地・連絡先を記して下さい

〒 都道府県  
住所  
TEL FAX メールアドレス

3. 上記の運営主体に、あてはまるものに○をつけて下さい(1つ選択)

1. 自治体直営 2. NPO法人 3. 社会福祉法人 4. 社会福祉協議会 5. 学校法人  
6. 株式会社 7. 任意団体 8. その他( )

4. 上記の実施場所に、あてはまるものに○をつけて下さい(1つ選択)

1. 保育所 2. 認定こども園 3. 幼稚園 4. 公共施設・公民館 5. 児童館 6. 単独施設  
7. 空き店舗・商業施設 8. 民家・マンション等 9. その他( )

5. 上記の1日あたりの従事者数に、あてはまるものに○をつけて下さい(1つ選択)

1. 1人 2. 2人 3. 3~4人 4. 5~9人 5. 10人以上

6. 1日あたりの利用親子の組数に、あてはまるものに○をつけて下さい(1つ選択)

1. 5組未満 2. 5~10組未満 3. 10~20組未満 4. 20~50組未満 5. 50組以上

7. あなたの勤務日数に、あてはまるものに○をつけて下さい(1つ選択)

1. 3日以下 2. 4日 3. 5日 4. 6日

8. あなたの1日の勤務時間に、あてはまるものに○をつけて下さい(1つ選択)

1. 3時間未満 2. 3~6時間未満 3. 6~8時間未満 4. 8時間以上

9. あなたが現在の地域子育て支援拠点に勤務してきた期間に、あてはまるものに○をつけて下さい(1つ選択)

1. 1年未満 2. 1~2年未満 3. 2~3年未満 4. 3~4年未満  
5. 4~5年未満 6. 5~6年未満 7. 6~7年未満 8. 7~10年未満 9. 10年以上

(2)あなたの日々の支援について、1~4のうち最もあてはまる番号に○をつけてください。

設 問	1 あては まる	2 だいた いはま る	3 あまり あては まらな い	4 あては まらな い
10 親子の交流を通して親同士の支え合いや子ども同士の育ち合いを促している	1	2	3	4
11 地域の連携や交流を図るなどの活動に取り組んでいる	1	2	3	4
12 親及び子どもの性別、出身地、民族、国籍、障がいなどにかかわらず、すべての親子の支援を対象としている	1	2	3	4
13 親子の孤立を防ぎ、子育ての不安感を軽減するように働きかけている	1	2	3	4
14 利用者全体の働きをよく把握し、利用者同士がつながれるよう心掛けている	1	2	3	4
15 個別の相談に応じたケースの記録、日報や活動記録などを作成、支援の検証や改善につなげている	1	2	3	4
16 定期的にミーティングやケース会議を持ち、相互に利用者理解を深め、職員間で協力し、支援している	1	2	3	4
17 子育て等に関する相談や援助を行っている	1	2	3	4
18 日頃から利用者や関わり、気兼ねなく相談に応じられるよう、声をかけている	1	2	3	4
19 子育てや子育て支援に関する講習などを月一回以上実施している	1	2	3	4
20 相談の際は、相づちや視線に配慮しながら、受容と共感的な態度で接している	1	2	3	4
21 子どもの個性や発達を理解し、親とともに成長を見守っている	1	2	3	4
22 利用者同士が同じ課題について語り合う機会を意図的に設けている	1	2	3	4
23 利用者に対して子育てに関する情報を幅広く収集し、情報の提供を行っている	1	2	3	4
24 子育てや子育て支援に関する講習などを月一回以上実施している	1	2	3	4
25 子ども一人ひとりの得意の得意を尊重している	1	2	3	4
26 親が支えを得て子育てに取り組め、子どもに向き合うゆとりと自信を持てるように支援している	1	2	3	4
27 利用者のこれまでの経緯や体験(職業を含む)を活かしつつ親として成長できるように支援している	1	2	3	4
28 利用者の悩みを理解し、その軽減や解決のための方法を共に考え、最終的に本人の自己決定を尊重している	1	2	3	4
29 子どもが様々な人々との関係性の中で、他者への信頼感を高められるように支援している	1	2	3	4
30 利用者がいつでも支援者に手助けを求めることができるよう、水平・対等な関係を築いている	1	2	3	4
31 利用者が他の子どもにも気づき、意識し、他の親とともに子育てする姿勢が育つよう、関わっている	1	2	3	4
32 親への支援を通じ、支援者が自らの成長を感じ、またそれを支援に活かしている	1	2	3	4
33 利用者同士が、今後も同じ地域で支え合いながら子育てをしていくことを視野に入れて、支援している	1	2	3	4
34 他の子の成長を利用者が我が子のこのように共感をもてるように、支援している	1	2	3	4

アンケートは以上です。ご記入いただいた本紙は専用封筒に入れて、**10月25日までに、ポストに投函下さい。**ご協力ありがとうございます。NPO法人子育てひろば全国連絡協議会 研究代表者 坂本純子

厚生労働省 平成30年度子ども・子育て支援推進調査研究事業  
「地域子育て支援拠点の寄り添い型支援が親の成長を促すプロセス分析と支援者の役割に関する調査研究」

### 地域子育て支援拠点の利用者アンケート

(1)あなたとあなたの子育ての状況について質問します。

1. 拠点をいっしょに利用している子どもにとって、あなたは、次のどれにあてはまりますか？あてはまる番号に○をしてください

1. 母 2. 父 3. 祖母 4. 祖父 5. その他( )

2. あなたの子どもが月齢と、拠点以外に利用している施設があれば○をつけてください。

第○子	月齢	利用している施設があれば○をつけてください			
		保育園	幼稚園	認定こども園	その他(施設の種別を記入)
第1子	歳 月				
第2子	歳 月				
第3子	歳 月				
第4子	歳 月				
第5子	歳 月				

3. 現在いっしょに拠点を利用している子どもは、何番目のお子さんですか？あてはまる番号に○をしてください

1. 第1子 2. 第2子 3. 第3子 4. 第4子 5. 第5子

4. 拠点を利用し始めてから現在の期間にあてはまる番号に○をしてください(1つ選択)

1. 3ヶ月未満 2. 3~6ヶ月未満 3. 6~1年未満 4. 1~2年未満 5. 2年以上

5. 1ヶ月あたりの拠点の利用頻度にあてはまる番号に○をしてください(1つ選択)

1. 月4日未満 2. 月4~8日未満 3. 月8~12日未満 4. 月12日以上

6. あなたの年齢にあてはまる番号に○をしてください(1つ選択)

1. 19歳以下 2. 20~24歳 3. 25~29歳 4. 30~34歳  
5. 35~39歳 6. 40~44歳 7. 45~49歳 8. 50歳以上

7. 現在のあなたの就労状況について、いずれかあてはまる番号に○をしてください

1. 働いている 2. 働いていない

→1に○をつけた方に伺います。次のどれにあてはまりますか？(1つ選択)

1. フルタイム 2. パートタイム 3. その他( )

→2に○をつけた方に伺います。次のどれにあてはまりますか？(1つ選択)

1. 育児休業中 2. 結婚を機に退職 3. 出産を機に退職 4. その他( )

8. 子育てを日常的に手伝ってくれる人はいますか？

1. はい 2. いいえ

→1に○をつけた方に伺います。それは次のうち誰ですか？

1. 配偶者 2. 実母 3. 実父 4. 義母 5. 義父 6. 祖父母 7. 兄弟姉妹  
8. 隣人 9. 友人 10. その他( )

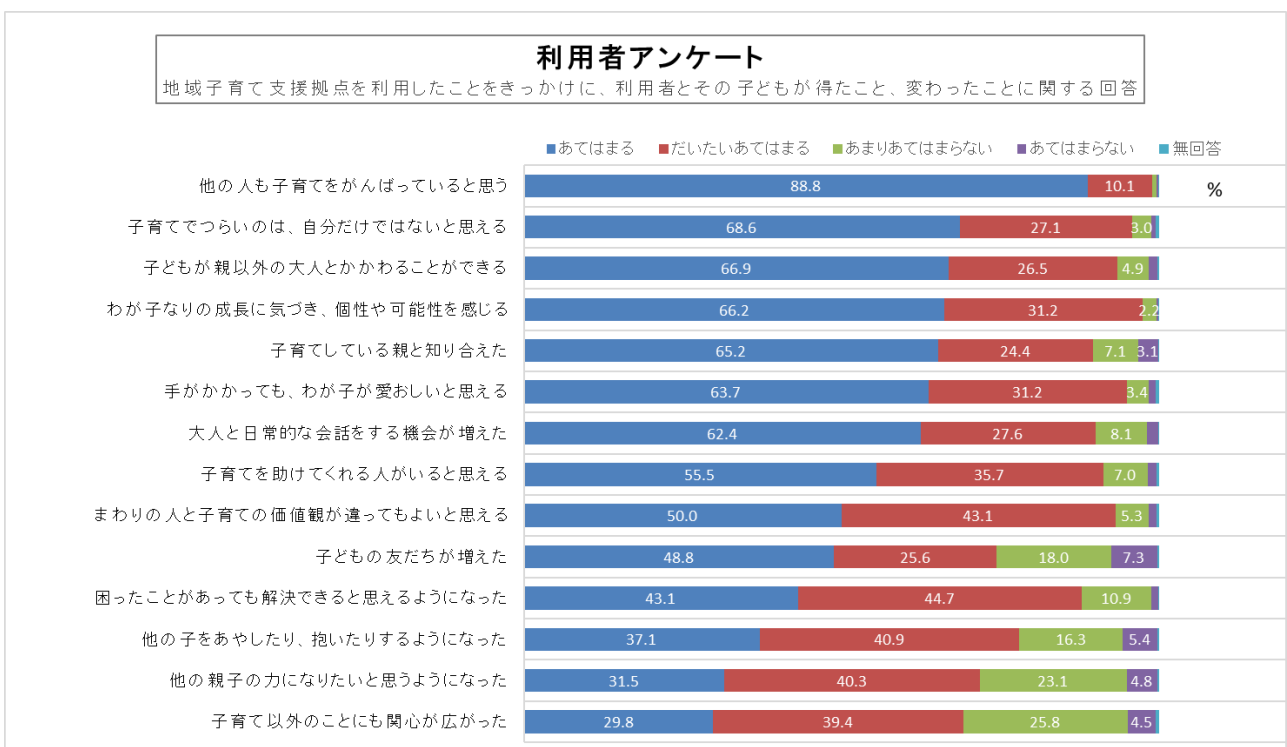
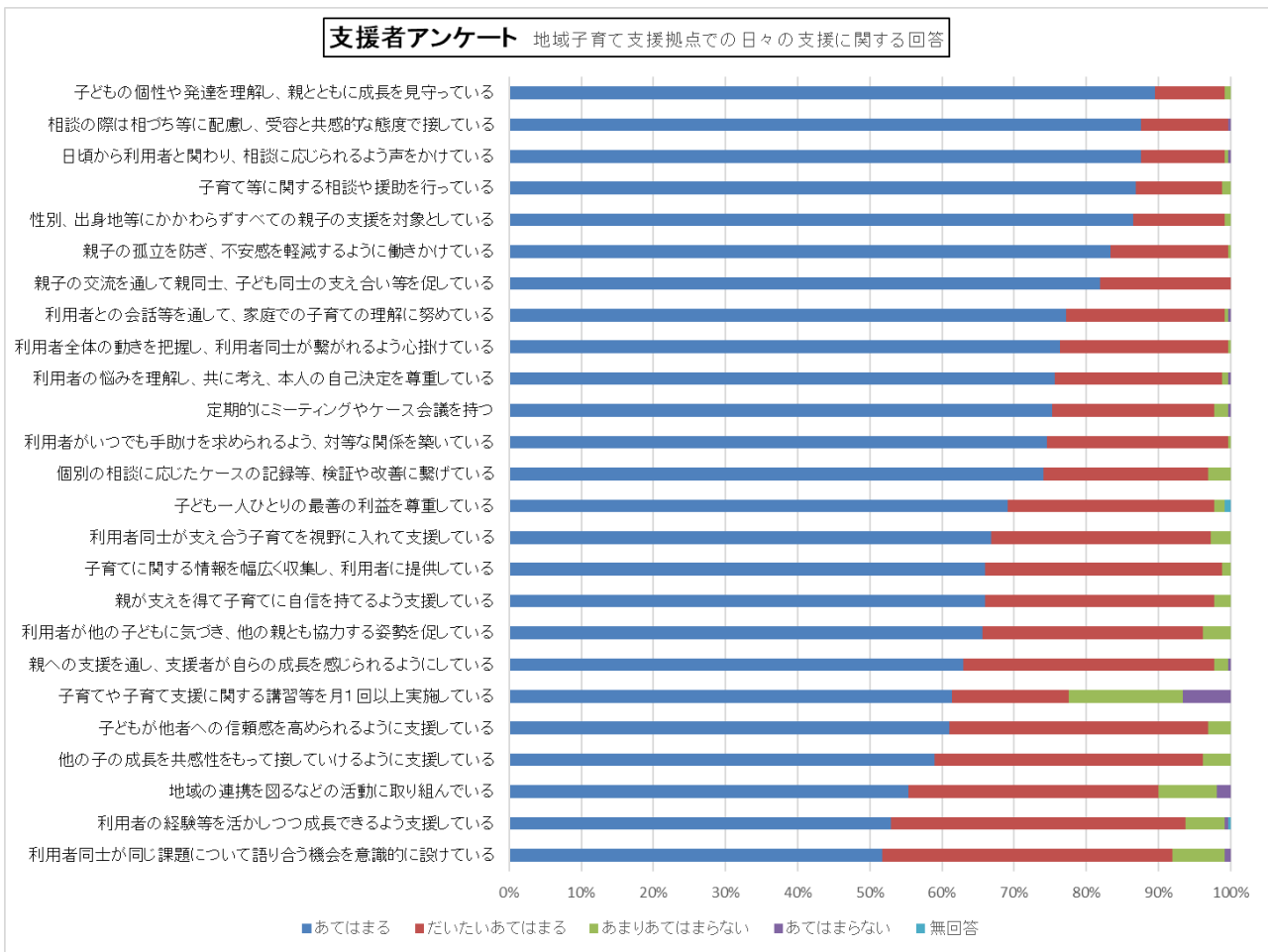
(2)あなたとあなたの子育ての状況について質問します。1~4のうち最もあてはまる番号に○をつけてください

あなたが利用している地域子育て支援拠点について、該当する答え1~4のいずれかに○をしてください	1 あては まる	2 だいた いはま る	3 あまり あては まらな い	4 あては まらな い
9 あいさつと笑顔で、親子を温かく迎え入れてくれる	1	2	3	4
10 職員は、ふだんから親子の交流の場におらず、日常的な関わりはほとんどない	1	2	3	4
11 多様な親子が利用できる雰囲気がある	1	2	3	4
12 職員は、気持ちや悩みを受け止め、共感してくれる	1	2	3	4
13 解決方法を押し付けられるように感じることがある	1	2	3	4
14 子育ての悩みなどを気兼ねなく相談できる	1	2	3	4
15 子ども同士、トラブルがあると利用しにくい	1	2	3	4
16 子育てを支えられていると感じる	1	2	3	4
地域子育て支援拠点を利用したことをきっかけに、あなたとあなたの子どもが得られたこと、変わったことなどについて、該当する答え1~4のいずれかに○をしてください	1	2	3	4
17 子どもが友だちが増えた	1	2	3	4
18 子育てしている親と知り合えた	1	2	3	4
19 大人と日常的な会話をする機会が増えた	1	2	3	4
20 他の親子の力になりたいと思うようになった	1	2	3	4
21 わが子なりの成長に気づき、個性や可能性を感じる	1	2	3	4
22 困ったことがあっても解決できると思えるようになった	1	2	3	4
23 自分の本当の気持ちを話せないことがある	1	2	3	4
24 手がかかって、わが子が愛おしいと思えるようになった	1	2	3	4
25 子育てでつらいのは、自分だけではないと思えるようになった	1	2	3	4
26 子育てを助けてくれる人がいると思えるようになった	1	2	3	4
27 子どもが親以外の大人とかかわることができるようになった	1	2	3	4
28 面倒なことは、あまりやりたくないと思う	1	2	3	4
29 子育て以外のことにも関心が広がった	1	2	3	4
30 他の子をあやしたり、抱いたりするようになった	1	2	3	4
31 自分の情報や経験は、他の人の役に立つとは思えない	1	2	3	4
32 まわりの人と子育ての価値観が違ってよいと思えるようになった	1	2	3	4
33 他の人も子育てをがんばっていると思う	1	2	3	4

アンケートは以上です。ご記入いただいた本紙は専用封筒に入れて、**10月25日までに、ポストに投函下さい。**ご協力ありがとうございます。NPO法人子育てひろば全国連絡協議会 研究代表者 坂本純子

## (2). 調査結果の一部抜粋

### 1. 支援者／利用者アンケートの結果から





## 2. 「地域子育て支援拠点の支援者アンケート」調査結果(一部抜粋)

回収数...(数量)

無回答	0
全体	259

調査区分...(SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	WEB調査	185	71.4
2	郵送調査	74	28.6
	無回答	0	0.0
	全体	259	100.0

(1) 3. 上記の運営主体に、あてはまるものに○をつけて下さい(1つ選択)

No.	カテゴリー名	n	%
1	自治体直営	55	21.2
2	NPO法人	88	34.0
3	社会福祉法人	73	28.2
4	社会福祉協議会	8	3.1
5	学校法人	6	2.3
6	株式会社	6	2.3
7	任意団体	6	2.3
8	その他	16	6.2
	無回答	1	0.4
	全体	259	100.0

4. 上記の実施場所に、あてはまるものに○をつけて下さい(1つ選択)

No.	カテゴリー名	n	%
1	保育所	53	20.5
2	認定こども園	13	5.0
3	幼稚園	0	0.0
4	公共施設・公民館	59	22.8
5	児童館	19	7.3
6	単独施設	34	13.1
7	空き店舗・商業施設	35	13.5
8	民家・マンション等	25	9.7
9	その他	20	7.7
	無回答	1	0.4
	全体	259	100.0

6. 1日あたりの利用親子の組数に、あてはまるものに○をつけて下さい(1つ選択)

No.	カテゴリー名	n	%
1	5組未満	19	7.3
2	5～10組未満	53	20.5
3	10～20組未満	88	34.0
4	20～50組未満	64	24.7
5	50組以上	33	12.7
	無回答	2	0.8
	全体	259	100.0

(2) 10. 親子の交流を通して親同士の支え合いや子ども同士の育ち合いを促している

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	212	81.9
2	だいたいあてはまる	47	18.1
3	あまりあてはまらない	0	0.0
4	あてはまらない	0	0.0
	無回答	0	0.0
	全体	259	100.0

11. 地域の連携や交流を図るなどの活動に取り組んでいる

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	143	55.3
2	だいたいあてはまる	90	34.7
3	あまりあてはまらない	21	8.1
4	あてはまらない	5	1.9
	無回答	0	0.0
	全体	259	100.0

12. 親及び子どもの性別、出身地、民族、国籍、障がいなどにかかわらず、すべての親子の支援を対象としている

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	224	86.5
2	だいたいあてはまる	33	12.7
3	あまりあてはまらない	2	0.8
4	あてはまらない	0	0.0
	無回答	0	0.0
	全体	259	100.0

13. 親子の孤立を防ぎ、子育ての不安感を軽減するように働きかけている

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	216	83.4
2	だいたいあてはまる	42	16.2
3	あまりあてはまらない	1	0.4
4	あてはまらない	0	0.0
	無回答	0	0.0
	全体	259	100.0

14. 利用者全体の動きをよく把握し、利用者同士がつながれるよう心掛けている

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	198	76.4
2	だいたいあてはまる	60	23.2
3	あまりあてはまらない	1	0.4
4	あてはまらない	0	0.0
	無回答	0	0.0
	全体	259	100.0

15. 個別の相談に応じたケースの記録、日報や活動記録などを作成、支援の検証や改善につなげている

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	192	74.1
2	だいたいあてはまる	59	22.8
3	あまりあてはまらない	8	3.1
4	あてはまらない	0	0.0
	無回答	0	0.0
	全体	259	100.0

16. 定期的にミーティングやケース会議を持ち、相互に利用者理解を深め、職員間で協力し、支援している

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	195	75.3
2	だいたいあてはまる	58	22.4
3	あまりあてはまらない	5	1.9
4	あてはまらない	1	0.4
	無回答	0	0.0
	全体	259	100.0

17. 子育て等に関する相談や援助を行っている

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	225	86.8
2	だいたいあてはまる	31	12.0
3	あまりあてはまらない	3	1.2
4	あてはまらない	0	0.0
	無回答	0	0.0
	全体	259	100.0

18. 日頃から利用者に関わり、気兼ねなく相談に応じられるよう、声をかけている

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	227	87.6
2	だいたいあてはまる	30	11.6
3	あまりあてはまらない	1	0.4
4	あてはまらない	1	0.4
	無回答	0	0.0
	全体	259	100.0

19. 利用者との日常的な会話や態度などの様子を通して、家庭での子育てや生活背景の理解に努めている

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	200	77.2
2	だいたいあてはまる	57	22.0
3	あまりあてはまらない	1	0.4
4	あてはまらない	1	0.4
	無回答	0	0.0
	全体	259	100.0

20. 相談の際は、相づちや視線に配慮しながら、受容と共感的な態度で接している

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	227	87.6
2	だいたいあてはまる	31	12.0
3	あまりあてはまらない	0	0.0
4	あてはまらない	1	0.4
	無回答	0	0.0
	全体	259	100.0

21. 子どもの個性や発達を理解し、親とともに成長を見守っている

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	232	89.5
2	だいたいあてはまる	25	9.7
3	あまりあてはまらない	2	0.8
4	あてはまらない	0	0.0
	無回答	0	0.0
	全体	259	100.0

22. 利用者同士が同じ課題について語り合う機会を意識的に設けている

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	134	51.7
2	だいたいあてはまる	104	40.2
3	あまりあてはまらない	19	7.3
4	あてはまらない	2	0.8
	無回答	0	0.0
	全体	259	100.0

23. 利用者に対して子育てに関する情報を幅広く収集し、情報の提供を行っている

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	171	66.0
2	だいたいあてはまる	85	32.8
3	あまりあてはまらない	3	1.2
4	あてはまらない	0	0.0
	無回答	0	0.0
	全体	259	100.0

24. 子育てや子育て支援に関する講習などを月一回以上実施している

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	159	61.4
2	だいたいあてはまる	42	16.2
3	あまりあてはまらない	41	15.8
4	あてはまらない	17	6.6
	無回答	0	0.0
	全体	259	100.0

25. 子ども一人ひとりの最善の利益を尊重している

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	179	69.1
2	だいたいあてはまる	74	28.6
3	あまりあてはまらない	4	1.5
4	あてはまらない	0	0.0
	無回答	2	0.8
	全体	259	100.0

26. 親が支えを得て子育てに取り組み、子どもに向き合うゆとりと自信を持てるように支援している

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	171	66.0
2	だいたいあてはまる	82	31.7
3	あまりあてはまらない	6	2.3
4	あてはまらない	0	0.0
	無回答	0	0.0
	全体	259	100.0

27. 利用者のこれまでの経験や体験(職業を含む)を活かしつつ親として成長できるように支援している

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	137	52.9
2	だいたいあてはまる	106	40.9
3	あまりあてはまらない	14	5.4
4	あてはまらない	1	0.4
	無回答	1	0.4
	全体	259	100.0

28. 利用者の悩みを理解し、その軽減や解決のための方法を共に考え、最終的に本人の自己決定を尊重している

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	196	75.6
2	だいたいあてはまる	60	23.2
3	あまりあてはまらない	2	0.8
4	あてはまらない	1	0.4
	無回答	0	0.0
	全体	259	100.0

29. 子どもが様々な人たちとの関係性の中で、他者への信頼感を高められるように支援している

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	158	61.0
2	だいたいあてはまる	93	35.9
3	あまりあてはまらない	8	3.1
4	あてはまらない	0	0.0
	無回答	0	0.0
	全体	259	100.0

30. 利用者がいつでも支援者に手助けを求めることができるように、水平・対等な関係を築いている

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	193	74.5
2	だいたいあてはまる	65	25.1
3	あまりあてはまらない	1	0.4
4	あてはまらない	0	0.0
	無回答	0	0.0
	全体	259	100.0

31. 利用者が他の子どもにも気づき、意識し、他の親とともに子育てする姿勢が育つよう、関わっている

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	170	65.6
2	だいたいあてはまる	79	30.5
3	あまりあてはまらない	10	3.9
4	あてはまらない	0	0.0
	無回答	0	0.0
	全体	259	100.0

32. 親への支援を通し、支援者が自らの成長を感じ、またそれを支援に活かしている

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	163	63.0
2	だいたいあてはまる	90	34.7
3	あまりあてはまらない	5	1.9
4	あてはまらない	1	0.4
	無回答	0	0.0
	全体	259	100.0

33. 利用者同士が、今後も同じ地域で支え合いながら子育てをしていくことを視野に入れて、支援している

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	173	66.8
2	だいたいあてはまる	79	30.5
3	あまりあてはまらない	7	2.7
4	あてはまらない	0	0.0
	無回答	0	0.0
	全体	259	100.0

34. 他の子の成長を利用者が我が子のことのように共感性をもって接していけるように、支援している

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	153	59.0
2	だいたいあてはまる	96	37.1
3	あまりあてはまらない	10	3.9
4	あてはまらない	0	0.0
	無回答	0	0.0
	全体	259	100.0

(3) 「地域子育て支援拠点の利用者アンケート」調査結果(一部抜粋)

回収数...(数量)

無回答	0
全体	1322

調査区分...(SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	WEB調査	691	52.3
2	郵送調査	631	47.7
	無回答	0	0.0
	全体	1322	100.0

(1) 1. 拠点をいっしょに利用している子どもにとって、あなたは、次のどれにあてはまりますか？あてはまる

番号に○をしてください

No.	カテゴリー名	n	%
1	母	1296	97.9
2	父	13	1.0
3	祖母	9	0.7
4	祖父	0	0.0
5	その他	2	0.2
	無回答	2	0.2
	全体	1322	100.0

3. 現在いっしょに拠点を利用している子どもは、何番目のお子さんですか？あてはまる番号に○をしてください

No.	カテゴリー名	n	%
1	第1子	1031	78.0
2	第2子	428	32.4
3	第3子	84	6.4
4	第4子	10	0.8
5	第5子	2	0.2
	無回答	1	0.1
	全体	1322	100.0

4. 拠点を利用し始めてから現在の期間にあてはまる番号に○をしてください(1つ選択)

No.	カテゴリー名	n	%
1	3ヶ月未満	167	12.6
2	3～6ヶ月未満	187	14.1
3	6ヶ月～1年未満	285	21.6
4	1～2年未満	328	24.8
5	2年以上	355	26.9
	無回答	0	0.0
	全体	1322	100.0

5. 1ヶ月あたりの拠点の利用頻度にあてはまる番号に○をしてください(1つ選択)

No.	カテゴリー名	n	%
1	月4日未満	434	32.9
2	月4～8日未満	385	29.1
3	月8～12日未満	255	19.3
4	月12日以上	245	18.5
	無回答	3	0.2
	全体	1322	100.0

6. あなたの年齢にあてはまる番号に○をしてください(1つ選択)

No.	カテゴリー名	n	%
1	19歳以下	3	0.2
2	20～24歳	14	1.1
3	25～29歳	217	16.4
4	30～34歳	520	39.3
5	35～39歳	374	28.3
6	40～44歳	166	12.6
7	45～49歳	17	1.3
8	50歳以上	8	0.6
	無回答	3	0.2
	全体	1322	100.0

7. 現在のあなたの就労状況について、いずれかあてはまる番号に○をしてください

No.	カテゴリー名	n	%
1	働いている	210	15.9
2	働いていない	1108	83.8
	無回答	4	0.3
	全体	1322	100.0

7-1. 1に○をつけた方に伺います。次のどれにあてはまりますか？(1つ選択)

No.	カテゴリー名	n	%
1	フルタイム	90	42.9
2	パートタイム	85	40.5
3	その他	32	15.2
	無回答	3	1.4
	非該当	1112	
	全体	210	100.0

7-2. ○をつけた方に伺います。次のどれにあてはまりますか？(1つ選択)

No.	カテゴリー名	n	%
1	育児休業中	289	26.1
2	結婚を機に退職	237	21.4
3	出産を機に退職	427	38.6
4	その他	78	7.0
	無回答	77	6.9
	非該当	214	
	全体	1108	100.0



8. 子育てを日常的に手伝ってくれる人はいますか？

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	1003	75.8
2	いいえ	318	24.1
	無回答	1	0.1
	全体	1322	100.0

8-1. 1に○をつけた方に伺います。それは次のうち誰ですか？

No.	カテゴリー名	n	%
1	配偶者	904	90.1
2	実母	403	40.2
3	実父	190	18.9
4	義母	204	20.3
5	義父	104	10.4
6	祖父母	35	3.5
7	兄弟姉妹	98	9.8
8	隣人	15	1.5
9	友人	42	4.2
10	その他	16	1.6
	無回答	1	0.1
	非該当	319	
	全体	1003	100.0

9. あいさつと笑顔で、親子を温かく迎え入れてくれる

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	1233	93.1
2	だいたいあてはまる	84	6.4
3	あまりあてはまらない	1	0.1
4	あてはまらない	2	0.2
	無回答	2	0.2
	全体	1322	100.0

10. 職員は、ふだんから親子の交流の場におらず、日常的な関わりはほとんどない

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	67	5.1
2	だいたいあてはまる	50	3.8
3	あまりあてはまらない	232	17.5
4	あてはまらない	967	73.1
	無回答	6	0.5
	全体	1322	100.0

11. 多様な親子が利用できる雰囲気がある

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	1018	77.0
2	だいたいあてはまる	280	21.2
3	あまりあてはまらない	14	1.1
4	あてはまらない	7	0.5
	無回答	3	0.2
	全体	1322	100.0

12. 職員は、気持ちや悩みを受け止め、共感してくれる

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	954	72.2
2	だいたいあてはまる	333	25.2
3	あまりあてはまらない	24	1.8
4	あてはまらない	7	0.5
	無回答	4	0.3
	全体	1322	100.0

13. 解決方法を押し付けられているように感じることもある

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	34	2.6
2	だいたいあてはまる	25	1.9
3	あまりあてはまらない	247	18.7
4	あてはまらない	1014	76.6
	無回答	2	0.2
	全体	1322	100.0

14. 子育ての悩みなどを気兼ねなく相談できる

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	822	62.1
2	だいたいあてはまる	412	31.2
3	あまりあてはまらない	70	5.3
4	あてはまらない	14	1.1
	無回答	4	0.3
	全体	1322	100.0

15. 子ども同士、トラブルがあると利用しにくい

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	130	9.8
2	だいたいあてはまる	328	24.8
3	あまりあてはまらない	492	37.3
4	あてはまらない	365	27.6
	無回答	7	0.5
	全体	1322	100.0

16. 子育てを支えられていると感じる

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	865	65.4
2	だいたいあてはまる	393	29.7
3	あまりあてはまらない	53	4.0
4	あてはまらない	6	0.5
	無回答	5	0.4
	全体	1322	100.0

17. 子どもの友だちが増えた

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	645	48.8
2	だいたいあてはまる	338	25.6
3	あまりあてはまらない	238	18.0
4	あてはまらない	97	7.3
	無回答	4	0.3
	全体	1322	100.0

18. 子育てしている親と知り合えた

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	862	65.2
2	だいたいあてはまる	322	24.4
3	あまりあてはまらない	94	7.1
4	あてはまらない	41	3.1
	無回答	3	0.2
	全体	1322	100.0

19. 大人と日常的な会話をする機会が増えた

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	825	62.4
2	だいたいあてはまる	365	27.6
3	あまりあてはまらない	107	8.1
4	あてはまらない	22	1.7
	無回答	3	0.2
	全体	1322	100.0

20. 他の親子の力になりたいと思うようになった

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	416	31.5
2	だいたいあてはまる	534	40.3
3	あまりあてはまらない	305	23.1
4	あてはまらない	63	4.8
	無回答	4	0.3
	全体	1322	100.0

21. わが子なりの成長に気づき、個性や可能性を感じる

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	874	66.2
2	だいたいあてはまる	413	31.2
3	あまりあてはまらない	29	2.2
4	あてはまらない	3	0.2
	無回答	3	0.2
	全体	1322	100.0

22. 困ったことがあっても解決できると思えるようになった

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	570	43.1
2	だいたいあてはまる	590	44.7
3	あまりあてはまらない	144	10.9
4	あてはまらない	15	1.1
	無回答	3	0.2
	全体	1322	100.0

23. 自分の本当の気持ちを話せないことがある

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	104	7.9
2	だいたいあてはまる	346	26.2
3	あまりあてはまらない	621	46.9
4	あてはまらない	248	18.8
	無回答	3	0.2
	全体	1322	100.0

24. 手がかかっても、わが子が愛おしいと思えるようになった

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	841	63.7
2	だいたいあてはまる	413	31.2
3	あまりあてはまらない	45	3.4
4	あてはまらない	15	1.1
	無回答	8	0.6
	全体	1322	100.0

25. 子育てでつらいのは、自分だけでないと思えるようになった

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	906	68.6
2	だいたいあてはまる	358	27.1
3	あまりあてはまらない	40	3.0
4	あてはまらない	11	0.8
	無回答	7	0.5
	全体	1322	100.0

26. 子育てを助けてくれる人がいると思えるようになった

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	734	55.5
2	だいたいあてはまる	472	35.7
3	あまりあてはまらない	93	7.0
4	あてはまらない	18	1.4
	無回答	5	0.4
	全体	1322	100.0

27. 子どもが親以外の大人とかかわることができるようになった

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	885	66.9
2	だいたいあてはまる	350	26.5
3	あまりあてはまらない	65	4.9
4	あてはまらない	18	1.4
	無回答	4	0.3
	全体	1322	100.0

28. 面倒なことは、あまりやりたくないと思う

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	166	12.6
2	だいたいあてはまる	475	35.9
3	あまりあてはまらない	470	35.6
4	あてはまらない	204	15.4
	無回答	7	0.5
	全体	1322	100.0

29. 子育て以外のことにも関心が広がった

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	394	29.8
2	だいたいあてはまる	522	39.4
3	あまりあてはまらない	341	25.8
4	あてはまらない	59	4.5
	無回答	6	0.5
	全体	1322	100.0

30. 他の子をあやしたり、抱いたりするようになった

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	491	37.1
2	だいたいあてはまる	539	40.9
3	あまりあてはまらない	216	16.3
4	あてはまらない	72	5.4
	無回答	4	0.3
	全体	1322	100.0

31. 自分の情報や経験は、他の人の役に立つとは思えない

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	35	2.6
2	だいたいあてはまる	159	12.0
3	あまりあてはまらない	709	53.7
4	あてはまらない	413	31.2
	無回答	6	0.5
	全体	1322	100.0

32. まわりの人と子育ての価値観が違ってよいと思えるようになった

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	661	50.0
2	だいたいあてはまる	570	43.1
3	あまりあてはまらない	70	5.3
4	あてはまらない	16	1.2
	無回答	5	0.4
	全体	1322	100.0

33. 他の人も子育てをがんばっていると思う

No.	カテゴリー名	n	%
1	あてはまる	1174	88.8
2	だいたいあてはまる	134	10.1
3	あまりあてはまらない	9	0.7
4	あてはまらない	2	0.2
	無回答	3	0.2
	全体	1322	100.0

平成 30 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業  
地域子育て支援拠点の寄り添い型支援が  
親の成長を促すプロセス分析と  
支援者の役割に関する調査研究

---

◆本調査研究の報告書は、下記の NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会のホームページにて公開しています◆

<http://kosodatehiroba.com>

お問合せ先

**NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会**

〒222-0037 横浜市港北区大倉山 1-12-18-303 TEL.045-531-2888/045-546-9970 FAX.045-512-4971

[info@kosodatehiroba.com](mailto:info@kosodatehiroba.com)

---

